

岩手県立博物館周辺で新たに確認された哺乳類4種

高橋 雅雄

First records of four mammal species around Iwate Prefectural Museum

TAKAHASHI Masao

岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 Iwate Prefectural Museum, Ueda Matsuyashiki 34, Morioka City, 020-0102, Japan.

Abstract

Between April 2023 and March 2025, four species of mammals, *Mogera imaizumii*, *Urotrichus talpoides*, *Pipistrellus abramus*, and *Mustela itatsi*, were newly recorded around Iwate Prefectural Museum.

日本では海棲種（ジュゴン *Dugong dugon*・食肉目アシカ科・アザラシ科・ラッコ *Enhydra lutris*・鯨目）を除くと 7 目 120 種の哺乳類（絶滅種と外来種を含む）が生息し（Ohdachi et al. 2015），岩手県では 52 種が記録されている（岩手県生活環境部自然保護課 2001）。岩手県立博物館周辺では 3 目 10 種の哺乳類が記録されたが（高橋 2022），新たに 4 種を確認したので報告する。なお，分類と学名・和名は川田ほか（2018）に拠った。

方法

岩手県立博物館（北緯 39°45'18"，東経 141°09'14"）は岩手県盛岡市中西部にあり，北上川を堰き止めた四十四田ダム貯水湖の南東端に位置する。敷地の外周は林地に囲まれており，北側と東側はアカマツ林，南側から西側にかけてはコナラを主とした雑木林で，これらは貯水湖を囲む河畔林に含まれる。また，博物館の敷地の北西部は植物園・岩石園として整備され，多種多様な樹種が植えられている。敷地の南部は，古民家の展示スペースとして整備・管理されている。調査範囲は博物館の敷地内と西側の雑木林の一部とした。

結果

(1) アズマモグラ *Mogera imaizumii*

2024 年 4 月 27 日 8:20 に職員駐車場へ上がる坂道の路上で確認した。道路脇の土中からアスファルト上へ迷い出たようで，道路上を横断しようと素早く移動し，

5 分後に地中に潜っていった。体長はおおよそ 9 cm だった。飯島・土屋（2015）に従い，①耳介は無く，②前足は幅が長く，③吻は長方形に露出していたことからモグラ属で，分布域からアズマモグラと同定した。



図 1. 確認されたアズマモグラ。

(2) ヒミズ *Urotrichus talpoides*

2024年8月8日に職員駐車場にて損傷の無い新鮮な死骸1体が拾得された。頭胴長88mm、尾長30mm、手掌全長12.6mm、手掌幅5.4mm、後足長14.2mmであった。飯島・土屋(2015)に従い、①耳介は無く、②前足は縦長で、③尾長は体長の1/3程度で、④切歯は先端が尖っていたことからヒミズと同定した。



図2. 確認されたヒミズ.

(3) アブラコウモリ *Pipistrellus abramus*

2024年4月17日に古民家傍の管理棟にて、棟内に保管したビニール傘の中に小型コウモリ類1頭が入り込んでいるのを、施設管理を担う協栄テックス株式会社の社員が発見した。館内で撮影・計測した後、その日の夕方に盛岡市上田小野松付近で放獣した。

コウモリの会(2023)に従い、①前腕長は100mm以下で尾があり、②鼻葉は無く耳珠があり、③尾端は尾膜の後縁よりほとんど突出せず、④前肢第3指の中節骨は基節骨の2倍以下で、⑤左右の耳介の基部は広く離れ、⑥鼻は突出せず、⑦前肢第5指は長く、⑧耳珠は幅広くて先端に丸みがあり、⑨前腕長は38mm以下で、⑩踵骨後葉は明瞭であったことからアブラコウモリ属で、⑪後足底は明色系であったことからアブラコウモリと同定した。



図3. ビニール傘の中のアブラコウモリ.



図4. 確認されたアブラコウモリ.

(4) ニホンイタチ *Mustela itatsi*

博物館西側の雑木林の沢に動体検知の赤外線センサーカメラを2024年4月10日に4台設置し、12月20日まで撮影を実施した。使用したカメラはLtl-Acorn社のLtl-6210 PLUSで、撮影設定はMode: Camera + Video(静止画の後に動画) ; Photo size: 12MP; Video Size: 720P; Video Length: 30S; Interval: 1 min; Sense Level: Normal; Side PIR: ONとした。カメラは樹木の下部に固定し、沢の水辺が広く写るようにした。

ニホンイタチはその内の3台に計6回撮影された。上流側から1台目は4月に3回、2台目は8月に2回、最下流の4台目には8月に1回で、いずれも夜間に沢の水辺を歩いていた。



図5. 2024年4月12日(上:1台目)と8月22日(下:2台目)に撮影されたニホンイタチ。

考察

県立博物館周辺では3目10種の哺乳類が確認されており(高橋2022)、本研究の4種を加えると5目14種となった。しかしながら、小型哺乳類(齧歯目ヤマネ科・キヌゲネズミ科・ネズミ科・真無盲腸目・翼手目)

と樹上棲中型哺乳類(ムササビ *Petaurista leucogenys*・ニホンモモンガ *Pteromys momonga*)の多くが未確認で、博物館周辺の哺乳類相の全容を明らかにするには、これらを対象とした捕獲調査・巣箱調査・音声聞き取り調査等が必要である。

謝辞

本研究では、岩手県立博物館の施設管理を担う協栄テックス株式会社の方々から情報を提供いただきました。心より感謝を申し上げます。

引用文献

- 飯島正広・土屋公幸(2015)モグラハンドブック。文一総合出版、東京。
- 岩手県生活環境部自然保護課(編)(2001)岩手県野生生物目録。岩手県生活環境部自然保護課、盛岡。
- 川田伸一郎・岩佐真宏・福井大・新宅勇太・天野雅男・下稲葉さやか・樽創・姉崎智子・横畑泰志(2018)世界哺乳類標準和名目録。哺乳類科学58(別冊):1-53。
- コウモリの会(編)(2023)識別図鑑日本のコウモリ。文一総合出版、東京。
- Ohdachi SD, Ishibashi Y, Iwasa MA, Fukui D & Saitoh T (eds) (2015) The wild mammals of Japan 2nd edition. Shokadoh Book Sellers, Kyoto.
- 高橋雅雄(2022)カメラトラップ法で確認された岩手県立博物館周辺の陸生中型・大型哺乳類相。岩手県立博物館研究報告39:1-7。

要 旨

2022年度から2024年度にかけて、岩手県立博物館周辺において、3目4種の哺乳類を新たに確認した。

キーワード：哺乳類相、カメラトラップ。